

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

  
Data

監督：張藝謀（チャン・イーモウ）  
出演：鞏俐（コン・リー）／李保田  
（リー・パオティエン）／李  
緯（リー・ウエイ）

## 菊豆

(チュイトウ) (Ju Don)

1990年・中国映画・93分  
配給／東光徳間

2004 (平成16) 年6月19日鑑賞  
〈シネ・ヌーヴォ・中国映画の全貌2004〉

## みどころ

張藝謀監督の第3弾。金で買われて老人のもとへ嫁ぎ、性的虐待を受ける主人公菊豆の不倫ドラマともいえるべき作品で、鞏俐（コン・リー）の熱演が光る。最後は『紅いコーリャン』と同じく悲劇的な結末が……。舞台を染物屋に変更することによって実現した赤を基調とした色彩美は絶品で、この映画の出来は『紅いコーリャン』以上！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <『紅いコーリャン』に続く張藝謀監督の第3作>

『紅いコーリャン』（87年）で鮮烈な監督デビューを飾った張藝謀監督が、第2作『ハイ・ジャック／台湾海峡緊急指令』（88年）をはさんで監督した第3弾がこの『菊豆』（90年）。『紅いコーリャン』は中国の田舎に生きる主人公たちの生活を描きながらも、1930年代に入ると、平和な生活を営んでいた主人公たちの前に残忍な日本軍が登場し、主人公たちはやむをえずこれと「対決」という悲劇的な結末となっている。

しかしこの『菊豆』は、初期の張藝謀監督らしく、貧しく封建的な田舎まちで、金に買われた形で染物屋の主人、楊金山（ヤンチンジャン）（李緯／リー・ウエイ）に嫁いでいく菊豆（チュイトウ）（鞏俐／コン・リー）が主人公。そして驚いたことに、この映画のテーマは今風に言うと、その菊豆と金山に拾われ金山の甥として染物屋で働き生活している天青（ティエンチン）（李保田／リー・パオティエン）との間の「不倫」。張藝謀監督作品に欠かすことのできない鞏俐の若き日のちょっとしたヌード姿（？）を拝むことができる貴重な作品。最近でこそ、『たまゆらの女』（02年）の中で、少し熟女となった（？）鞏俐のヌード姿（？）が披露されたが、今までの鞏俐主演の作品にはそういう役柄が全くなかったため、その意味でもこの『菊豆』の映像は貴重（？）。

### <染物屋への設定変更が大成功！>

張藝謀監督特有の色彩美はこの映画でも健在。現代中国の代表作家、劉恆（リウホン）の原作では菊豆の嫁ぎ先は農家だったが、色彩美を表現するため張藝謀監督はあえてこれを染物屋に設定変更したとのこと。映画の全編を通じて現われる赤、青、黄色等の原色に染められた布の美しさは、大きな染物屋の建物のセットと相まって、『紅いコーリャン』以上。一体どんな作業行程で染めあげているのかはよくわからないが、染めあげられた大きな布が高く吊るされた建物の中で繰り広げられる作業のシーンは興味深い。またその建物の中で毎夜繰り広げられる金山の菊豆に対する性的虐待や、その裏返しとしての菊豆と天青との不倫の物語も説得力があり、今の時代でも十分新鮮なものとなっている。

### <ショッキングな水槽内での殺人事件(?)>

ショッキングなのは、染料を溶け込ませた水槽の中でおこる2つの殺人(?)事件。真っ赤な染料が溶け込んだ水槽の中で、中風で下半身がマヒした金山が溺れているのをじっと見つめる、菊豆と天青の子である幼少時代の天白は不気味。そしてまた、少年に成長した天白が、水槽の中からやっと手を伸ばして木につかまっている実の父親、天青の頭を棒切れで殴り殺してしまうシーンもショッキング。そして圧巻は、建物に火をつけた菊豆の手によって、美しい染め物や建物全体が真っ赤に燃えあがっていくシーン。これらの効果は、すべて物語の設定を染物屋としたことによるものだ。

### <3人の人間模様は・・・?>

若い嫁をもらい、「楊家のために何とか男の子の跡継ぎを！」と願いながら、老人の金山は性的不能者だから、子供をつくることができない。その結果、毎晩菊豆を性的に虐待し、早く子供をつくれと迫るだけ！そんな金山によって傷つけられた菊豆の身体を、家畜小屋の穴の中から覗き見していたのが天青。偶然それを知った菊豆は驚くものの、今度は、覗き見されていることを知りつつ……。そして金山の留守中、天青を誘う菊豆。こうなると女の方が強い！

金山を恐がる天青も、この菊豆の誘惑に負けて(?)、2人は秘密の仲に……。そして生まれてきたのが天白。自分の子供が生まれ、跡継ぎができたことと喜ぶ金山だが、世の中、それほど甘くはない。ある日、天青との不倫がバレた菊豆は、中風で倒れている金山に対して、「天白はあなたの子供ではない。天青との間にできた子供だ」と冷たく言い放った。そして、ほとんど生きる屍のような状態の金山を屋敷の中で養いながら、菊豆と天青の楽しい生活を金山に見せつけるという計画は天白の成長と共にうまくいくかと思えたが……。

### <意外な個性の天白>

期待されて生まれた跡継ぎ息子の天白だが、口をきくのが遅い。何か障害があるのでは

と心配する菊豆。そんな天白が、ある日はじめて口をきいたのは「お父さん」という言葉。それも金山に対してだ。それまで、うちひしがれ、ご先祖さまに対して菊豆、天青の2人への罰を願ひ、ある時は天白を殺そうとまで思っていた金山だが、これには有頂天となつて大喜び。以降、楊家での生活のバランスは微妙なものになった。

そんな中、突然おこつた水槽の中での金山の死。菊豆がヒ素を盛つたためではないことがわかり、安心した天青だったが、この金山の死亡により楊家の跡取りは天白と決まつた。そして未亡人となつた菊豆と同じ家に天青は住むことはできないと楊家の長老たちによって決定したことにより、2人の関係はますます不便になっていった。そして隠れて時々密会していることを天白は知っている様子。そんな中、遂に天青も水槽の中で・・・。

幼少時代からこの天白という子供は少し不気味だったが、少年に成長し、楊家の跡取りとなつた後の天白の意外な個性はちょっと見モノ。不倫関係にあつた菊豆と天青との間に生まれたこの天白の意外な個性が、菊豆と天青をめぐるその後のドラマティックな人間模様と楊家の悲劇を生み出す大きな原因となっている。

### < 『紅いコーリャン』 以上の出来 >

この『菊豆』は、カンヌ国際映画祭ルイス・ブニュエル賞等を受賞したが、一般的には『紅いコーリャン』を超える評価はされていない。しかし私の目からみると、たしかに『紅いコーリャン』は衝撃的な作品だったが、この『菊豆』の方が作品としての完成度は高いのではないかと思うほどよくできた映画。是非多くの皆さんに観てもらいたいものだ。

2004（平成16）年6月21日記